

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : リンデンウッド大学

留学期間 : 平成 25 年 8 月 19 日 ~ 平成 29 年 5 月 30 日

今回の報告は 2015 年度の秋セメスターについてです。このセメスターは入学してから 5 つ目のセメスターです。今学期は 6 クラス 17 クレジットを取り、A が 5 つ、B が 1 つでした。今学期の GPA は 3.82 で、入学からこれまでのトータルの GPA は 3.83 となりました。下記が私の授業スケジュールです。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
9:00	Painting I (-11:50)		Painting I		
9:30		Social Psychology (-10:45)		Social Psychology	
12:00	American History: Colony to Civil War (-12:50)	Sculpture I (-2:50)	American History: Colony to Civil War	Sculpture I	American History: Colony to Civil War
4:25		Elementary Art Methods (6:00)			
6:00	Abnormal Psychology (-8:50)				

Painting I ではアクリル画と油絵を習いました。だいたい 2 クラス (1 週間) で 1 枚の絵をスケッチから色を塗り、仕上げまでします。私は高校で音楽を取っていて、絵画のクラスはこれまで取ったことがなかったので、最初は他の人についていけるか少し心配でしたが、プロフェッサーが適切に教えてくれたので、不安もなくなり、のびのびと描くことができ、楽しむことができました。私はスケッチから色を塗るまでが時間がかかるので、授業が全て終わってからスタジオに戻り仕上げをすることがほとんどでした。しかし、そのおかげで

critique（批評）の時間ではクラスメートにとっても誉めてもらえました。クラス自体は教室の真ん中にセットされた still life（静物）を各自描くだけで、とてもリラックスしたものでした。ほとんどの人は（私も含め）イヤフォンで音楽を聞きながら描いていて、自分のしたいことだけをできたのでとても気楽なクラスでした。（もちろんプロフェッサーの話はきちんと聞きます。）

American History はスライドを使いながらの典型的なレクチャーでした。学校のウェブサイトの Blackboard というタブに全てのスライドがアップロードされるので、それをコピーしていき、そこにノートを取ります。ネイティブスピーカーほどノートを取るスピードが早くないので、インターナショナル生としては、このシステムはとても役立ちます。スライドに書いてあることをノートに全て書く必要がありませんし、自分の思ったことや追加の点をスライドの横に書くだけで、レクチャーの内容は全ておさえた自分のオリジナルのノートになります。このクラスではファイナルも含め大きなテストが 3 回だけでした。このクラスが私がレクチャーを受けた中で一番大きなクラスでしたが、全員で 25 人ほどの比較的少人数のクラスでこれがリベラルアーツ教育のいいところだと改めて思いました。私は歴史は苦手ですが、B は取ることができたので、まだよかったかなと思います。

Abnormal Psychology は週 1 回だけの evening クラスで、油断すると宿題を忘れてしまいそうになりました。ですが、私は宿題に時間がかかる方なので個人的には好きなクラスでした。このクラスではプロフェッサーが「先にレクチャーを受け、レクチャーでカバーされたチャプターを後で読むのが効率的」と教えてくれたのでそれに従いクラスを受けました。私はいつも逆にしていましたが、（先に教科書を読み、あとでレクチャーを受ける）この週 1 のクラスではチャプターの全てではなくポイントだけをカバーするので、教科書を読んでいるときにそのポイントに気づくことができます。そしてその方が効率的に勉強できました。このクラスでは異常心理のケーススタディが中心で、異常心理を持つ人の話を読みそれについて分析したペーパーを合計 4 回出しました。なぜその人がそのように振る舞うようになったのか、その理由や、それを解決する方法について教科書を読み基礎知識をつけながら、自分なりの答えを出します。例になっているクライアント（患者）によって抱えている問題や原因が違うので、それについての原因を探り、可能な限りの解決方法を出すのはとても興味深いものでした。私は分析をとっても誉められて、マスター（大学院）はどうするのかと聞かれました。（まだ決めていませんが。）

Social Psychology のクラスではレクチャー形式でしたが、授業の後半は出された課題についてグループディスカッションをしました。パワーポイントのスライドは全て学校のウェブサイトにアップロードされているので、授業にそのコピーを持っていきそこにレクチャーの内容を書き込みます。課題は授業までに教科書を読み、授業の後に終わったチャプターについて質問に沿いながらエッセイを書きます。基本的に社会心理学なので、社会の中で人がどのようなことを無意識でするのかということが中心でした。たとえば、何がスポーツの試合中のプレーヤーのパフォーマンスを変えるかということや、人種差別はどういう心理から起こるのか、ということです。また、心理学のクラスなのですが、やはり生物学、特に脳の働きからは心理は切っても切り離せないもので、そのつながりを学ぶのもおもしろかったです。社会の中の無意識のルールということについてレクチャーをした後は、そのルールを破るようなことをして（もちろん法律に触れたり、人を傷つけたりすること以外ですが）それについて周囲の反応や自分の感想を書くという課題もあって、とても興味深いクラスでした。大きなテストは 4 つで、このクラスでは一番点数の悪いテストは最終的なグレードにはカウントされないことにな

っていて、私は3回とも90%以上をキープしていたので、ファイナルを免除されたのでよかったです。

Sculpture I は彫刻のクラスで、様々なマテリアルを使って作品を造るので、大変でしたが飽きずに1つ1つ全力で取り組むことができました。木材やプラスチック、紙や段ボール、粘土、スチール板などを使用しました。木材は、加工されたものではなく切られたままの4分の1の丸太を使ったこともありました。その場合はのこぎりや木を加工するための機械を使って、自分で加工しました。このクラスでは通常何も加工されていないマテリアルを使うので、どうやって加工するのかなど基本的なことから学べたので、とても勉強になりました。課題提出はグループ制作も含め5回あり、授業中はレクチャーとディスカッション、そして作成時間でした。レクチャーではマテリアルの歴史や、そのマテリアルが人類の歴史の中でどう活かされてきたかなどを学びました。そこからインスピレーションを得て、作品を造ることもありました。

学期末には、まだ emphasis を決めていないなら sculpture にしたらどうか、とプロフェッサーに勧められました。(スタジオアートではいろいろなアートを勉強するのですが、そこから自分の得意分野の授業だけを他より多く取ることもできます。)

Elementary Art Method は、Art Education の授業で美術の先生になりたい人が取るクラスです。私は Art Therapy を勉強しているので、この授業も requirement です。このクラスはリラックスしたクラスで、毎回1人か2人がクラスメートを小学生に見立てて仮授業を行い、そこから良かった点や改善できるポイントなどを話し合います。実際に仮授業を行って見ないと、どのような点が生徒が理解しがたいかなどが、準備している時点では分からないのでとてもためになりました。

Work and Learn (学内で働く分が奨学金の一部となるシステム) は、毎週10時間学内で働くのですが、今セメスターは先セメスターに引き続きアートスタジオで働きました。水曜日の夜6-11時と金曜日の1-6時です。仕事内容は受付で、スタジオに来た人の名前とIDナンバーをチェックします。その他は割り当てられた掃除です。掃除はそれほど時間はかかりませんし、夜は人もそれほど来ないので座っている時は課題をしています。カフェテリアや他の場所で働くよりは、とても楽で課題も終わらせられるのでいい環境です。

今セメスターもとても忙しく、ほぼ毎晩コンピューターラボが閉まる時間(12時)まで勉強していました。そのおかげで、入学してから今まで毎セメスターDean's List (優秀な学生のリスト、GPA3.5以上)に載ることができました。Honor Course も8クラス取らなければいけないのですが、今まで頑張ってきたのであと1つで終わりです。今から留学する人もHonor Course に取り組んだり何か標準よりも少し頑張っていて、留学中にこれだけはやったと言えることに取り組むことをお勧めします。